

公表

事業所における自己評価総括表

児発

○事業所名	きりんのあくびkidsみと			
○保護者評価実施期間	令和7年3月6日		～	令和7年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和7年3月7日		～	令和7年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	感覚統合療法を取り入れた療育を行っている。	発達の中で重要とされている感覚刺激を入力することで基礎感覚を整え、情緒の安定を促している。粗大運動の取り組みから、身体を動かす楽しさを養っている。	活動が固定化することのないよう、様々な業種の職員がプログラムミーティングに参加することで専門性を生かした支援と職員のスキルアップを図っている。
2	幅広い年齢の利用者が通所しているため、異年齢の他児との交流が盛んで社会性を養える。	集団活動では異年齢の利用者が一緒に活動することで他者との関わりを増やし思いやりや力加減、勝ち負けの受容といった社会性を養えるよう支援している。	活動を通し様々な年齢の他児や指導員と関わることで他者とのやりとりを増やし社会性や言語面の発達を促せるよう支援していく。
3	土・祝・長期休みはレスバイトケアとして、長時間の預かり療育を行っている。	活動内容については、固定化しないようクッキングや戸外活動、地域イベントの参加など幅広い活動に取り組んでいる。また、活動内容について利用者の希望を取り入れることで意思決定や自己実現の支援を行っている。	活動が固定化することのないよう、様々な業種の職員が活動の立案を行い、その日の支援の前後に活動内容の共有を行うことで職員間で安全に連携しながら支援ができるよう努めている。活動内容の改善点については次回の支援で生かせるよう職員間で共有を行っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援教室の大きさが手狭である。	ワンフロア式のため個室がなく、学習・個別活動・運動を主とした集団活動を同じフロアでせざるを得ない。	広く運動をメインとした活動に取り組む必要があるときには公園など地域資源を利用している。 また、フロア内をパーテーションなどで区切ることで個別活動や静養スペースなどを確保できるよう努めている。
2	集団プログラム内で年齢や発達段階にあった運動プログラムの提供が難しいことがある。	幼児から高学年まですべての利用者が集団活動に参加するため、活動内容の難易度調整が難しいことがある。	支援内容については、心身の発達段階に応じて段階的に難易度を調整していくことで利用者の活動意欲の向上に努めている。 また、個別プログラムを行うことで個々のニーズに合わせた支援に取り組んでいる。
3	段差が多く、全体的に設備が成人向けとなっている。	もともと、室内がデイ用のスペースではないため、大人用の設備となっている。	踏み台や視覚教材を用いてバリアフリー化に努めている。 また絵カードや写真などを用いて情報を視覚化することで利用者が利用しやすく安心して過ごせる事業所となるよう努めている。